

**Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテ**

言語学・応用言語学専攻  
2007（平成 19）年入学

**1LT07069T** 高瀬真理

2011（平成 23）年 1 月提出

## 要旨

本論文は、先行研究においてあまりされていない、XカラYマデとXカラYニカケテの比較を行うことで、それぞれの性質を明らかにしている。本稿ではまず、XYの要素を、(i)時間、(ii)場所、(iii)時間と場所以外に分け、それぞれについて考察している。その結果、Xを始点、Yを終点とした時間的範囲や場所的範囲を表す性質はXカラYマデとXカラYニカケテに共通であるが、XカラYニカケテでは始点となるXカラを省略できないことが分かった。またXカラYマデは時間や場所に限らず多様な軸をとることができるのに対し、XカラYニカケテは時間と場所しか基本的に軸とすることができなかつた。さらにXカラYマデにはXYを含んだ幅広い範囲を表す性質、XカラYニカケテにはX~Yを限定的に抜き出す性質があった。

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 分析.....	2
2.1. 時間を表す Xカラ Y マデと Xカラ Y ニカケテ .....	2
2.2. 場所を表す Xカラ Y マデと Xカラ Y ニカケテ .....	3
2.3. 時間、場所以外を表す Xカラ Y マデと Xカラ Y ニカケテ .....	5
3. 先行研究.....	9
3.1. 藪崎 (2009) .....	9
3.2. 中村(2003).....	9
4. まとめ.....	11
参考文献.....	14

## 1. はじめに

XカラYマデとXカラYニカケテは、ともにXが始点、Yが終点を表すことで継続した範囲を示す表現である。XカラYマデの表現は沼田奥津(1966)や茂木(2000)、また沼田(1986)や(2000)などでも取り上げられている。次の(1)はXYに時間を、(2)はXYに場所を入れた例である。この場合、XカラYマデ、XカラYニカケテは、ともにほぼ同じ意味で用いられる<sup>1</sup>。

- (1) a. 今夜から明日の朝まで九州各地で激しい雨が降るでしょう。  
b. 今夜から明日の朝にかけて九州各地で激しい雨が降るでしょう。
- (2) a. 駅前通りから学校の正門まで色とりどりの花が植えられていた。  
b. 駅前通りから学校の正門にかけて色とりどりの花が植えられていた。

ところが(1)同様、XとYに時間が入るにもかかわらず、XカラYマデとXカラYニカケテで意味の異なる例がある。

- (3) a. 太郎は朝から晩まで部屋でゲームをしていた。  
b. ??太郎は朝から晩にかけて部屋でゲームをしていた<sup>2</sup>。

(3a)は太郎が一日中、ずっと部屋でゲームをしていたという意味を表すのに対し、(3b)では朝から晩の時間範囲にゲームをしていたという意味になる。このようにXカラYマデとXカラYニカケテは同じ条件でも、同じ意味で用いられる場合と異なる意味を表す場合がある。本論文では様々な観点から、XカラYマデとXカラYニカケテの意味や用法について考察し、それぞれの性質を明確化することを目的とする。

本稿ではまず、XYの要素を、(i)時間、(ii)場所、(iii)時間と場所以外に分け、それぞれについて考察する。

---

<sup>1</sup> 藪崎(2009)では、(1)や(2)のXカラYマデを副助詞マデの一用法として位置づけたが、XカラYニカケテや(3)のような例文については言及していない。

<sup>2</sup> 以下例文における??は、文としては正しいが、意味が不自然なことを表す。

## 2. 分析

### 2.1. 時間を表す Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテ

まず、XとYに時刻や日にちななどの時間を用いた例を見てみる<sup>3</sup>。次の(4),(5)はXカラとYマデが同じような意味で用いられる例である。

- (4) a. この通りは国際マラソンのため12月4日から5日まで通行止めになります。  
b. この通りは国際マラソンのため12月4日から5日にかけて通行止めになります。
- (5) a. アジサイやスズランは春から夏まで咲く花です。  
b. アジサイやスズランは春から夏にかけて咲く花です。

(4)は12月4日から5日の範囲において、(5)は春から夏の範囲においてという意味になる。これらはともに時間的範囲を表す文となり、Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテは同じような意味を持つ。次に上に挙げた(3)を再び見てみる。

- (3) a. 太郎は朝から晩まで部屋でゲームをしていた。  
b. ??太郎は朝から晩にかけて部屋でゲームをしていた。

(3a)は太郎が朝も昼も晩もといったように、「いつも、一日中、毎日」ゲームをしているという解釈となる。ここでは一日の始まりである朝をXに、一日の終わりである晩をYに入れることで時間の長さが長いことを表している。一方、(3b)は文字通り朝から晩の時間範囲を表し、(3a)とは異なる解釈であり、不自然な文である。(3)と同様な例はほかに(6)と(7)がある。

- (6) a. 私の学生時代は誕生日からお正月までアルバイトづくしだった。  
b. ??私の学生時代は誕生日からお正月にかけてアルバイトづくしだった。

(6a)では誕生日やお正月といったアルバイトをしていなさそうな日をXYに入れることで「いつでも、ずっと」などの意味を表している。一方、(6b)では誕生日からお正月の期間においてアルバイトだったという意味になり不自然な文となる。

---

<sup>3</sup> 中村(2003)では、Xカラ Yニカケテの時間的範囲を表す用法には、時間帯を結んだものと時刻を結んだものの二つがあるとしているが、本論文では区別しない。

- (7) a. エアコンがあれば真夏から真冬まで快適に過ごすことができる。  
 b. ??エアコンがあれば真夏から真冬にかけて快適に過ごすことができる。

(7a)は X に、1年の中での最も暑い時期である真夏を、Y に最も寒い時期である真冬を入れることで「ずっと、一年中」などの意味を持たせている。この場合、春や秋などの時期もこの範囲に含まれる。これに対し(7b)では、文字通り真夏から真冬の間の期間ということになり、秋は含まれるが春は含まれないということになり(7a)とは異なる解釈である。

以上の例に共通していることは、X と Y に時間を表す言葉が入ることである。しかし(4)や(5)の例では、X カラ Y マデ、X カラ Y ニカケテの両方の文において、X が始点 Y が終点となりその間の範囲を表しているのに対し、(3),(6),(7)の例では X カラ Y マデにおいて、X と Y は始点と終点ではなく X と Y を含んだ全体の範囲を表す。この場合 X カラ Y ニカケテに言い換えると異なる解釈となるため言い換えることはできない。

また、X カラ Y マデは始点を省略できるが、X カラ Y ニカケテは始点を省略できない。このことは、(8),(9)を見るとわかる。

- (8) a. 卓也は（試合開始から）試合終了まで黙りきったままだった。  
 b. \*卓也は（試合開始から）試合終了にかけて黙りきったままだった。
- (9) a. 私たちは飛行機の（出発から）到着までぐっすり眠った。  
 b. \*私たちは飛行機の（出発から）到着にかけてぐっすり眠った。

これは、X カラ Y ニカケテは XY により特定された範囲を述べる場合しか用いることができないからである。よって始点である X カラを省略することはできない。

以上のように XY に同じ時間を用いた例文でも許容できる文と許容できない文が存在する。X カラ Y マデは始点と終点を示すことで範囲を表すことができるだけでなく、「いつも、ずっと」のように X と Y を内部に含んだ範囲を表すこともできる。これに対し、X カラ Y ニカケテは X と Y によって区切られる特定の範囲しか表すことができない。よって XY 以外の範囲を表すことはできず、始点を省略することもできない。

## 2.2. 場所を表す X カラ Y マデと X カラ Y ニカケテ

次に X と Y に場所を用いた例を見てみる。次の(10),(11)は X カラ Y マデと X カラ Y ニカケテが同じような意味で用いられる例である。

- (10) a. 道路が渋滞していたため大分から福岡まで4時間もかかった。

b. 道路が渋滞していたため大分から福岡にかけて4時間もかかった。

(11) a. 山の頂上からふもとまで怪我をした妹を背負って降りた。

b. 山の頂上からふもとにかけて怪我をした妹を背負って降りた。

(10a,b)はいずれも大分から福岡の範囲において移動時間がかかったと解釈でき、(11a,b)は共に山の頂上からふもとの範囲において妹を背負ったという意味になる。これらはともに場所的範囲を表す文となり、XカラYマデとXカラYニカケテは同じような意味を持つ。

次はXカラYマデとXカラYニカケテで意味が異なる例である。

(12) a. 次郎は頭のとっぺんからつま先まで同じブランドで着飾っていた。

b. ??次郎は頭のとっぺんからつま先にかけて同じブランドで着飾っていた。

(13) a. 役者のあまりの大声にステージから客席まで静まり返った。

b. ??役者のあまりの大声にステージから客席にかけて静まり返った。

(12a)では身体の部位の末端である頭のとっぺんとつま先をXYに用いることで「全身」という意味表すのに対し、(12b)は文字通り頭のとっぺんからつま先という範囲を表し両者は異なる解釈となる。また、(13a)ではステージから席の範囲が静まり返ったのではなく、居合わせた人「全員」という意味を持つためXカラYマデとXカラYニカケテは異なる。

また、次の(14)を見てみると、どちらも自然な文だがそれぞれ含意する解釈が異なっている。

(14) a. 太郎は毎朝駅から学校まで自転車で通学しています。

b. 太郎は毎朝駅から学校にかけて自転車で通学しています。

(14a)と(14b)は、ともに駅から学校の範囲を自転車で通学しているという意味である。しかし(14b)の場合、駅から学校の範囲だけは自転車で通学しており、家から駅までは徒歩や電車など他の手段を用いていると考えられる。これは、XカラYマデは示す範囲以外に影響を及ぼさないが、XカラYニカケテはXY間の範囲を限定的に示す性質を持つと考えられる<sup>4</sup>。

---

<sup>4</sup> 取り立て詞ハを用いると範囲を限定する効果が高まる。(i)の例では  $a < b < c < d$  の順に限定の

さらに、XカラYマデは起点を省略することができるが、XカラYニカケテは省略することができない。

- (15) a. 太郎は毎朝（駅から）学校まで自転車で通学しています。  
b. \*太郎は毎朝（駅から）学校にかけて自転車で通学しています。
- (16) a. 今日の宿題は（1ページから）114ページまで読んで来ることです。  
b. \*今日の宿題は（1ページから）114ページにかけて読んで来ることです。

XカラYマデは自然と始点が想定されるが、XカラYニカケテは想定されにくい。これはXカラYニカケテは全体における一部を限定的に抜き出す性質を持つが、始点がなければ範囲を特定できないからである。

### 2.3. 時間、場所以外を表すXカラYマデとXカラYニカケテ

XカラYマデ、XカラYニカケテにおいて、XとYに時間や場所以外を用いた場合にはどのような性質を持つだろうか。以下では、XとYに時間や場所以外の対象に用いた場合を見ていく。

- (17) a. 新しくできたデパートには食品から骨董品までそろっている。  
b. ??新しくできたデパートには食品から骨董品にかけてそろっている。
- (18) a. この商品は原料からパッケージデザインまでこだわりぬいている。  
b. ??この商品は原料からパッケージデザインにかけてこだわりぬいている。

(17)ではXに食品、Yに骨董品が入れられている。この二つは一見連続性がないように思われるが、(17a)では「デパートに置いてありそうなもの」の列を軸としたうえで、想定しやすい食品と想定しにくい骨董品が挙げることで、「何でも」といったような多様性や意外性を表している。また(17a)はあくまでも発話者や作成者が想定した列なので、必ずしも「食品」と「骨董品」が用いられるわけではない。いうなれば「惣菜」と「絵画」でも構わないし「小魚」と「ハムスター」でも構わないのである。これに対し(17b)では食品から

---

度合いが高まると考えられる。

- (i) a. 太郎は毎朝駅から学校まで自転車で通学しています。  
b. 太郎は毎朝駅から学校にかけて自転車で通学しています。  
c. 太郎は毎朝駅から学校までは自転車で通学しています  
d. 太郎は毎朝駅から学校にかけては自転車で通学しています。  
(駅から学校以外は自転車で通学していない。)

骨董品の範囲が何を指すのか分からない。また(18)を見てみると、(18a)は「商品の要素」の中から原料とパッケージを挙げることで「全て」などの意味を持つ。Xに原料、Yにパッケージデザインが用いられているのも、発話者または作成者の頭の中になんらかの連続的列が想定されているためだと考えられる。これに対し(18b)では原料とパッケージデザインの範囲が何を指すのか分からない。以下の例も同様に説明することができる。

- (19) a. 裕子は勉強から運動まで得意だ。  
b. ??裕子は勉強から運動にかけて得意だ。
- (20) a. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットまで買った。  
b. ??健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットにかけて買った。
- (21) a. 新発売の包丁は熟したトマトから石まで切ることができる。  
b. ??新発売の包丁は熟したトマトから石にかけて切ることができる。
- (22) a. 家族旅行の日は早起きの長女から寝坊助の三男まで早く起きた。  
b. ??家族旅行の日は早起きの長女から寝坊助の三男にかけて早く起きた。
- (23) a. 会社の忘年会では平社員から社長まで羽目をはずして飲んだ。  
b. ??会社の忘年会では平社員から社長にかけて羽目をはずして飲んだ。
- (24) a. 新しくできた遊園地には大人から子供まで楽しめるアトラクションがある。  
b. ??新しくできた遊園地には大人から子供にかけて楽しめるアトラクションがある。
- (25) a. 先日オープンした遊園地に行ったが、ジェットコースターから観覧車まですごい行列ができていた。  
b. ??先日オープンした遊園地に行ったが、ジェットコースターから観覧車にかけてすごい行列ができていた。

(19a)はXに勉強、Yに運動を入れることで裕子が「何でも」得意であるということを示している。(20a)では海水浴に行くために買いそうな水着をXに、あまり買いそうにないバーベキューセットをYに入れることで「いろいろな、たくさんの」物を買ったことを表している。(21a)はXに包丁でらくらく切れるほど柔らかい熟したトマトを、Yに包丁では切ることができないような石を入れることで「どんなものでも」切ることができるということ

を表している。(22a)ではXに早起きの長女、Yに寝坊助の三男を入れることで、普段から早起きの長女も普段は寝坊ばかりの三男もといったように兄弟「みんな、そろって」という意味を表し、(23a)は社員「全員」を表している。(24a)では大人から子供までの範囲という意味ではなく「誰でも」という意味を表すのに対し、(24b)ではそのような意味はない。また(25a)ではともに人気のアトラクションであるジェットコースターや観覧車をXとYに入れることで「どれも」という意味を表している。

(17)-(25)に共通していることは、XYに入る言葉が時間や場所以外であり、範囲を表すと考えにくいことである。XカラYマデは、XとYに発話者または作成者が頭の中で想定した列の両極端のものが来ることによって想定される全体の意味を表す点である。次の例を見てほしい。

- (26) a. 太郎は引っ越しに関する何から何まで手伝ってくれた。  
b. ??太郎は引っ越しに関する何から何にかけて手伝ってくれた。

(26)の例の何から何までが「何でも、全て」等の意味を表すことからわかるように、XカラYマデが表すのは定まった範囲ではない。XとYに入る物や事柄が重要なのではないため、XとYに異なる対象を入れても同じような意味を表すことができる。これは上の(17)-(25)においても同じであり、XカラYニカケテに書き換えると、範囲の指す内容が不明なため許容できない文となる。

以上のようにXカラYマデは始点と終点を示すことで範囲を表す性質以外に、「いつも、ずっと」のようにXとYを内部に含んだ範囲を表す性質も持つ。これに対しXカラYニカケテは始点と終点によって区切られる特定の範囲しか表すことができない。よって始点と終点の範囲外を表すことはできず、始点を省略することもできない。

上で説明したように、XカラYマデは発話者または作成者の頭の中になんらかの連続的軸が想定されている場合、範囲ではなく全体を意味する。ある前提を仮定することでXカラYニカケテの文においても許容できる文となる場合がある。上で挙げた(20)を例に見ていく。

- (20) a. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットまで買った。  
b. ??健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットにかけて買った。

(20a)では「海水浴に行くために買いそうなもの」というカテゴリの中で最も想定しやすい水着と想定しにくいバーベキューセットを例に挙げることで、それ以外にも浮き輪やスイカなど何でも買い揃えたという全体を表す意味合いを持つ。この場合、XカラYニカケテでは指し示す範囲の内容わからないため言い換えることができない。しかし次のように、

「海水浴に行くために必要なもの」のリストがあらかじめ存在していたと仮定すると、次のように X カラ Y マデだけでなく X カラ Y ニカケテについても許容できる文となる。

- (27) (「海水浴に行くために必要なものリスト」の中から)
- a. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットまで買った。
  - b. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットにかけて買った。

これは買うものの順番が紙などに書かれることで場所としての性質をもつと考えられるからである。(27a)は(20a)同様「なんでも、たくさん」などの意味を持つが、(27b)では「海水浴に行くために必要なものリスト」の水着からバーベキューセットの範囲を表すに過ぎず X カラ Y マデと同じ解釈にはならない。また、「海水浴に行くために必要なものリスト」における一部の範囲を表し、他に買わなかった物があるという意味合いを含む。

同様に(21)の例文においても「柔らかいものから堅いものの順番」が存在したと仮定するならば、許容できる文となる。

- (21) a. 新発売の包丁は熟したトマトから石まで切ることができる。  
b. ??新発売の包丁は熟したトマトから石にかけて切ることができる。

- (28) (柔らかいものから堅いものの順番のなかで)
- a. 新発売の包丁は熟したトマトから石まで切ることができる。
  - b. 新発売の包丁は熟したトマトから石にかけて切ることができる。

(28a)では「何でも」切ることができるという意味だが、(28b)は柔らかいものから堅いものの順番のなかでトマトから石の範囲を切ることができるという意味になる。さらに柔らかいものやさらに固いものが残されているという意味合いを含む。

このように一列に並ぶような視覚化された場所の存在を前提として仮定することができれば、X カラ Y ニカケテの文においても始点と終点を示すことで範囲を表すことが可能となる。ただしこの場合も X カラ Y マデとは異なり、X カラ Y ニカケテは全体の中の一部の範囲しか表すことができない。

### 3. 先行研究

#### 3.1. 藪崎 (2009)

藪崎 (2009) は、格助詞マデには(29)のような副助詞の取り立て用法と(30)のような副助詞の程度用法の二つがあるとした。

(29) 名古屋のモーニングはデザートまでついてくる。 [藪崎 2009: p.71(1)]

(30) 仰々しいまでにきらびやかだった。 [藪崎 2009: p.71(2)]

そのうえで、従来格助詞的とされてきた位置変化の到達点を表すマデ[(31),(32),(33)]を格助詞ニと比較することで、副助詞マデの一用法であると位置づけた。

(31) 家から学校まで歩いた [藪崎 2009: p.71(3)]

(32) 5時から10時まで勉強した。 [藪崎 2009: p.71(4)]

(33) 本を1ページから50ページまで読んだ。 [藪崎 2009: p.71(5)]

さらに位置変化の到達点を表すマデの中にも、移動の量を表すマデと到達点を指定するマデがあるとし、位置変化の到達点を表すマデは程度用法を、移動の量を表すマデは取り立て用法を持つとした。

#### 3.2. 中村(2003)

中村(2003)は、Xカラ Yニカケテを時間的範囲を表す用法を中心に考察しており、Xカラ Yニカケテの空間的範囲を表す用法についても触れている。

中村(2009)では、Xカラ Yニカケテの時間的範囲を表す用法には、時間帯を結んだものと時刻を結んだものの二つがあるとした。また、そのそれぞれに対し、事象の持続期間が位置づけられる、二つの時間帯(b 時刻)を結んだ時間的範囲を示すもの[(34)]と、事象の持続期間が位置づけられる可能性のある、二つの時間帯(b 時刻)を結んだ時間的範囲[(35)]を示すものを区別している。

(34) a. お昼前から夕方にかけて雨が降るでしょう。 [中村 2003: p.9(55)]

b. 都住宅局や反対住民によると、伐採は1日午後5時から7時にかけて重機を使って行われた。 [中村 2003: p.9(57)]

(35) a. 関電によると、フェンスを乗り越えたのは15日夜から16日朝にかけてとみられる。 [中村 2003: p.9(56)]

- b. さらに同容疑者は2月6日午前8時から9時にかけて同中継所に侵入、同様の手口でケーブルを切断したということを認めた。[中村 2003: p.9(58)]

また開始の時点と終了の時点は特定する必要はなく、空間的範囲においても(36)のような領域を結んだものや、(37)のように地点を結んだものがあるとした。

- (36) 北陸から東北にかけての一帯が大雪の被害に見舞われた。  
[中村 2003: p.9(61)]
- (37) 人身事故で山手線の新宿駅から渋谷駅にかけて電車が不通となった。  
[中村 2003: p.9(62)]

#### 4. まとめ

本論文では、Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテを、(i) 時間、(ii) 場所、(iii) それ以外の対象に分け、考察してきた。考察の結果を、順に述べていく。

まず、Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテはともに、(1),(2)のように Xに始点 Yに終点を入れることで、時間や場所などの継続した範囲を表すことができる。

##### (1) 時間

- a. 今夜から明日の朝まで九州各地で激しい雨が降るでしょう。
- b. 今夜から明日の朝にかけて九州各地で激しい雨が降るでしょう。

##### (2) 場所

- a. 駅前通りから学校の正門まで色とりどりの花が植えられていた。
- b. 駅前通りから学校の正門にかけて色とりどりの花が植えられていた。

ただし(8),(9)のように、Xカラ Yニカケテにおいては始点を省略することはできない。

##### (8) 時間

- a. 卓也は（試合開始から）試合終了まで黙りきったままだった。
- b. \*卓也は（試合開始から）試合終了にかけて黙りきったままだった。

##### (9) 場所

- a. 私たちは飛行機の（出発から）到着までぐっすり眠った。
- b. \*私たちは飛行機の（出発から）到着にかけてぐっすり眠った。

また、Xカラ Yマデは、時間や場所だけでなく多様な軸をとり XYを含んだ幅広い範囲を表す。それに対し、Xカラ Yニカケテは、(27),(28)のような場合を除き、時間と場所しか軸にとることができず、XとYの間の範囲しか表すことができない。

##### (15) 時間・場所以外の対象

- a. 新しくできたデパートには食品から骨董品までそろっている。
- b. ??新しくできたデパートには食品から骨董品にかけてそろっている。

##### (27) (「海水浴に行くために必要なものリスト」の中から)

- a. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットまで買った。

b. 健一は海水浴に行くために水着からバーベキューセットにかけて買った。

(28) (柔らかいものから堅いものの順番のなかで)

a. 新発売の包丁は熟したトマトから石まで切ることができる。

b. 新発売の包丁は熟したトマトから石にかけて切ることができる。

さらに Xカラ Yニカケテは、(14)のように XY を具体的に示すことで全体における一部を限定的に抜き出す性質を持つ。

(14) a. 太郎は毎朝駅から学校まで自転車で通学しています。

b. 太郎は毎朝駅から学校にかけて自転車で通学しています。

これら Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテの性質を整理すると、以下のようになる。

(38) Xカラ Yマデ

a. 始点と終点を示すことで時間・場所の範囲を示す(始点は省略可)

b. 軸は時間・場所に限らない

c. XY を含んだ広い範囲を表す。

(39) Xカラ Yニカケテ

a. 始点と終点を示すことで時間・場所の範囲を示す(始点は省略不可)

b. 軸は時間・場所のみ (場所に還元できる前提がない限り)

c. X~Y を限定的に抜き出す

最後に、(39c)に関連して、Xカラ Yマデと Xカラ Yニカケテが数量表現と共起させた文について述べておく。(40),(41)のように、「いくつも」や「数本」といった複数性の数量表現を伴うと、Xカラ Yニカケテは XY 間の範囲を限定的に示す解釈を持つ。例えば、(40a)では流れ星が西の空から東の空にまたがって流れたという解釈だが、(40b)は西の空から東の空の範囲内で流れ星が流れたと解釈される。また(41a)は、新幹線が九州地方から四国地方にまたがって通っているという意味になるが、(41b)は、九州地方から四国地方の範囲に新幹線が通っているという意味となる。

(40) a. 西の空から東の空まで流れ星がいくつも流れた。

b. 西の空から東の空にかけて流れ星がいくつも流れた。

- (41) a. 九州地方から四国地方まで新幹線が数本通っている。  
b. 九州地方から四国地方にかけて新幹線が数本通っている。

ところが、同じ(40),(41)の文において、数量表現を「ひとつ」「一本」などの複数性の数量表現と共起させると、Xカラ Y マデと Xカラ Y ニカケテの解釈が同じに感じられる。(42a,b)は、共に流れ星が西の空から東の空にまたがって流れたという解釈となるし、(43a,b)も同様に、新幹線が九州地方から四国地方にまたがって通っているという解釈になる。

- (42) a. 西の空から東の空まで流れ星がひとつ流れた。  
b. 西の空から東の空にかけて流れ星がひとつ流れた。

- (43) a. 九州地方から四国地方まで新幹線が一本通っている。  
b. 九州地方から四国地方にかけて新幹線が一本通っている。

共起する数量詞の違いで、Xカラ Y マデと Xカラ Y ニカケテとで含意する解釈が異なるように見えるのは興味深いが、この一般化が正しいのか、また正しいとしたらそれがどういふ要因によるものか。こうした点を探るためには、更なる考察が必要である。この点についても、今後考えていきたい。

## 参考文献

- 奥津敬一郎(1966)『「マデ」「マデニ」「カラ」—順序助詞を中心として—』『日本語教育』9：日本語教育学会
- 中村亘(2003)『「～から～にかけて」の意味・用法—時間的・空間的範囲への位置づけ—』十文字学園女子短期大学研究紀要第34集 pp.1-10
- 沼田善子(1986)「とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』pp.186-192
- 沼田善子(2000)「とりたて」『日本語の文法2時・否定と取り立て』：凡人社
- 茂木俊伸(2000)『順序助詞句「A から B まで」について』筑波応用言語研究7：岩波書店
- 藪崎淳子(2009)「格助詞マデ」の副助詞性について『日本語文法』9巻2号 pp.70-87